

日本エアテック 社内報



2024年 春号

発行: 日本エアテック 企画管理部



日本エアテック社内報



2024年
春号

【発行】
日本エアテック
企画管理部



キーマンズ・インタビュー

—— 当社の鍵を握るあの人に、聞いてみたいことがある。 ——

KEYMAN's INTERVIEW

昨年12月、神戸工場に導入された現在テスト加工が進められている最新型5軸立形マシニングセンタ。今回のキーマンズ・インタビューは、新鋭機立ち上げで中心的な役割を担っている、生産技術部の田中さん、生産部の野村さん、浦川さんに登場いただき、新たな機械について様々なお話を伺います。

—— 今回の新鋭機導入に至った経緯について、ご紹介をお願いします。

田中 当社では、航空機用ジェットエンジンの重要構造部品であるブリスクを製造しています。既にスイス・リヒティ社製の5軸マシニングセンタを導入し、ブリスクの量産を行ってきましたが、顧客の要望に今以上に応えるために新たな工作機械を導入することになりました。

野村 ブリスクの製造で使われている国産のマシニングセンタは、今回導入した新鋭機のみです。顧客でも同機が採用されていたため、当社でも同じ設備を導入しました。

—— ブリスクとはどういった製品なのでしょう？

田中 ブリスクとはブレードとディスクを一体化した部品です。一体加工することにより、圧縮機の部品点数が削減できると共に、エンジン内部の空気抵抗が減り、従来品と比較すると効率が高まります。一方で、加工工程が複雑なうえ高い精度が求められることから、製作が非常に難しく技術力が試されます。

—— 導入された新鋭機には、どのような特徴がありますか？

野村 第一に、精度の高さが挙げられます。あとは、メンテナンスの容易さですね。リヒティ機は海外製のため、部品調達や人員派遣が海外からという事



株JAT 生産部 部長 野村 曜平さん

もあり、修理に時間がかかる難点がありました。その点、国内製の新鋭機は故障時にも迅速に対応できます。

浦川 操作感以外の工作機械とほぼ一緒です。タッチパネルが増えたくらいで、特別な難しさは感じません。リヒティ機は脱着時において垂直に製品を取り付けていたのに対し、新鋭機は水平に取り付けるといふ点で扱いやすいです。アラーム等が日本語で表示されるのも安心できます。

田中 当社で稼働する工作機械は、一般の市販機よりハイスベックなマシンが多いのですが、今回の新鋭機は、更にハイスベックです。例えばエンドミル(刃先)のもちを良くするためのハイプレッシャーユニットや、人が操作するよりもばらつきのない測定ができるタッチセンサー、間違ったツールの使用を防ぐために刃物の長さをレーザーで測る装置など、高品質な加工をスムーズに行うための機能が多数搭載されています。これらの機能は生産効率の飛躍的な向上を可能とし、大幅な工数低減が見込めます。

—— 従来機よりも扱いやすいようですね。逆に、難しさや注意が必要なポイントはありますか？

田中 顧客への同型機導入時から当社での立ち上げまで時間が空いていたため、機械がアップグレードされており、そのままと同じ加工プログラムが使えないという事象が発生しました。顧客と状況をすり合わせながら、システムの調整を重ねたのが、最初の難しさという苦労でした。

浦川 使っていく上では、切削油の温度は注意が必要ですが、製品の品質に影響が出ます。また細かなメンテナンスのノウハウは、実際に使いながら確立していかなくてはいいけません。フィルター交換やオイルクーラーなど他の工作機械と同じやり方でOKな部分もあります。最新であるほどメーカー側も運用方法を確立できていなかったりするので、試行錯誤が必要ですよ。

野村 リヒティ機も、メンテナンスに関しては最初手探りでしたからね。量産が始まったら出てくる課題も多いはずなので、適宜対応して使い込んでいきたいと思っています。

—— 新鋭機は現在テスト加工中の段階ということですが、量産に向けてどのようなスケジュールで動いていくのでしょうか。

田中 新鋭機を使ったブリス



株JAT 生産部 生産一係 係長 浦川 修平さん

クの量産は、2024年11月からを予定しています。目下の目標は、顧客承認を進めるための製品第一号の加工です。これは5月を予定しており、現在は機械のコンディション調整や取り扱いのバグ出し、調整要件のピックアップなどを進めています。私自身は加工プログラムを担当しています。顧客で作られたベースとなるプログラムはありますが、当社のやり方に合わせて最適化しないといけません。

野村 量産化のためには、手順書の作成も必要です。それを元にマシニング職場でOJT研修を行います。

浦川 私の役割は、無駄なく作業を進めるための仕組みづくりですね。作業の動線や手順を明確化し、誰がやっても同じ時間、同じクオリティで完成させられるようにします。

—— ありがとうございます。最後に、社内の皆さんに向けてのメッセージをお願いします。

浦川 新しい機械ですが、稼働させるうえで困ることは少ないと思います。基本的にリヒティ機と加工内容は一緒ですし、表示が日本語になっているため分かりやすく安心して加工ができます。

野村 ブリスク仕様の新鋭機は国内でも数が少なく、特に当社の機械にはたくさんのオプションがついています。希少な最先端マシンになっていますので、マシニング職場の方は楽しみにしていて欲しいですね(笑)。

田中 先進的な加工ができる新鋭機ですが、今後のトレンドも見込んだ上で導入を決定しました。これからも新たなプロジェクトに対応できるように、スペックの高い工作機械の導入を提案していきます。これら最先端のマシンを使いこなすには、ノウハウの構築が欠かせません。試行錯誤にはなりますが、ぜひ皆さんの協力をお願いいたします。



株日本エアテック 生産技術部 生産技術課 主任 田中 健さん

ランドセル贈呈式

2月10日(土)、明石駅に近接する複合型交流拠点「ウイズあかし」にて「ランドセル贈呈式」が行われました。当社で働く従業員「新1年生」になるお子様が対象で、今年には男の子2名、女の子1名の新1年生と、そのご家族を合わせた8名が出席されました。

緊張して待っている様子の子供たちでしたが、自分たちの選んだランドセルを目の前にしてワクワクしている様子でした。

神寶取締役の心温まる挨拶の後、それぞれにランドセルが手渡され、慣れない環境のせいか泣き出す場面もありましたが、背負った時は嬉しそうなお表情になっていたのが印象的でした。

その後のインタビューでは子供たちの個性ある回答もあり、出席している大人たちが元気をもらいました。

贈呈式終了後、みんなピカピカのランドセルをしまい込み、嬉しそうに帰っていき、最後には笑顔溢れる贈呈式となりました。

新1年生のお子様たちには、小学校入学に胸ふくらませた気持ちを忘れずに、ランドセルがその役目を終える日まで、元気に楽しく学校に通ってほしいと思います。

また、勉強や運動や遊びなど、様々なことに取り組み挑戦していく中で多くの事を学び、健やかな成長をされますようにお祈りしています。この度は本当におめでとうございます。

